

# 由農

未来の  
日本を  
創る

農業  
担い人

THE FUTURE of  
JAPAN CREATE

## PROFILE

すぎかた かずや

杉方 一也 さん

SUGIKATA KAZUYA

54歳

愛西市須依町

## 日々挑戦していきたい

愛西市にある37アールのハウスでトマトを栽培する杉方一也さんは、ご両親とともに家族三人で農業に取り組んでいます。事業の引継ぎや自身の体力を考え、8年前に20年以上勤めた金融機関を退職して就農しました。「就職の時には、家業を継ぐことを意識していました。金融機関を選んだのも、経営についての視野を広げることを考えていたのが理由です」。

杉方さんは小さなことでも記録を取り、数字を残すことや、現状の作業時間や作業工程、動線を把握し、見えてきた課題を改善していくことを心がけています。また、作業を効率化することで、より多くの時間を栽培に向けています。最近では、従来の春と秋を中心とした出荷に加え、夏場の出荷にも挑戦しています。高単価が見込める秋や春だけでなく、夏にも安定して出荷できれば経営の幅が広がります。また、最近高騰している燃料費がかからないのも魅力です。しかし暖房の費用がかからない一方で、夏場はハウス内の温度や湿度の制御が必要になります。「農業は土地やその年の気候、経営規模によっても適切な手段が変わってくると思います。父が長年積み重ねてきた経験を受け継ぐのはもちろんですが、県の普及課やJAの担当者の知識、自分なりのリサーチも合わせてベストな形を作っていきたいです」。

今後は生産者としてだけでなく、経営者として食べてもらうことにも意識を向けていきたいと話す杉方さん。「農業をはじめ、ものを作る仕事はどの業界でも魅力的ですが、商品の魅力や使い方を知ってもらうことも大切だと思います。せっかく作ったものはおいしく食べてもらい、保存方法やおいしく食べられるタイミングなど、商品の魅力を合わせて届けていきたいです」。

最後に「自分が作ったものをおいしく食べてもらうことが何よりの楽しみです。これからも技術に磨きをかけながら、おいしい食べ方を伝えていきたいです」とメッセージをいただきました。

